

富士山誕生

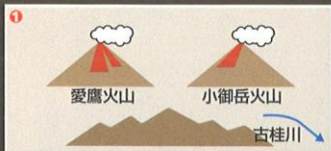
今からおおよそ七十〜二十万年前ごろ愛鷹火山と小御岳火山がほぼ同じ時期に火山活動を始め、約八万年前頃には既に活動を終え死火山になっていました。この二つの山の間に、新しい噴火が起こり火山活動が始まります。「古富士火山」です。最後の氷河期（ウルム氷期）に当

たる二万年前頃は、古富士火山付近は気温が現在より六〜七度低く、山頂近くには万年雪もありました。爆発による高温の噴出物やガスが雪を溶かし、泥流となつて旧桂川に沿って神奈川県厚木市まで流れ下りました。

古富士火山は、爆発的火山活動を一万五千年ぐらい前まで続け、高さは三千メートルくらいになったと推定されます。その後、新しい火山活動が古富士火山山頂近くから始まり、溶岩流を四方に流し、今から八千年ぐらい前には桂川を下り大月市猿橋まで二十キロ以上流れ下りました（猿橋溶岩流）。こうして「新富士火山」は、溶岩を流したり爆発による火山放出物を降らして、古富士火山を次第に堆積物で被っていききました。

富士山の年齢は古富士火山から数えて八万歳、成層火山の寿命は数十万年といわれる中では青年期にあたります。二百八十八年前の宝永噴火以来、火山性地震や微動も少なく、熱的にも異常がない休止状態が続いていますが、長期的に見ると活動期に入る可能性を十分に秘めている火山だといえます。

●富士山誕生



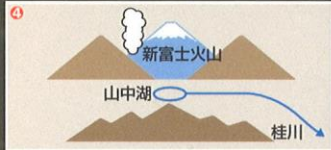
今からおおよそ70〜20万年前頃小御岳火山と愛鷹火山が火山活動を続けていた。



約8万年前頃は、死火山となった二つの山の間に新しい噴火が始まり、新しい火山（「古富士火山」）が成長を始める。



1万5000年くらい前まで続いた火山活動を終えた古富士火山の山頂近くから新富士火山活動が始まり、溶岩流を四方に流し、桂川を下り大月市猿橋まで20キロ以上流れ下った。



新富士火山は溶岩を流したり爆発による火山放出物を降らして、古富士火山を次第に新しい堆積物で被っていった。



●蒼竜峽
約1.2キロメートルの桂川の深谷で、桂川の浸食により溶岩が特別の地形を生み出している。「蒼竜峽」は徳富蘇峰がその奇観の見事さから名付けた。